

平成 28 年度第 2 回 ESD 活動支援企画運営委員会

議論の概要

日時 平成 28 年 9 月 12 日（月）14：00～16：00

会場 経済産業省別館 3 階各省庁共用会議室 310 室

センター長：

- 5 月 23 日に第 1 回 ESD 活動支援企画運営委員会（以下「第 1 回企画運営委員会」）を開催した後の、ESD 活動支援センターの主な活動を報告
- 第 1 回企画運営委員会での投票結果を受け、ロゴを決定（5 月 25 日）
- ESD 活動支援センターオープニング式典開催（5 月 26 日）
- 第 1 回地方センター設置準備のための意見交換会開催（6 月 20 日）
- ESD 推進ネットワーク構築に向けた全国組織・団体へのご協力依頼のための訪問を、文部科学省、環境省と共に行う。（6 月中旬より継続中）
- エコライフ・フェアへの ESD ブース出展（6 月 4・5 日、ESD-J 受託事業）
- 地方環境事務所に対する地方センター設置の方針の伝達及び協力依頼が 8 月初旬に行われ、地方センター設置準備の動きも進んでいる。
- 環境省主催 SDGs ステークホルダーズ・ミーティング（8 月 19 日）
- 日本ユネスコ国内委員会持続可能な開発目標（SDGs）推進特別分科会。（8 月 23 日）
- （政府）SDGs 推進本部円卓会議（9 月 12 日）
- ESD 活動支援センターにとっても、地方センター設置準備の過程は非常に重要で、環境省、文部科学省等と連携しながらあたっており、第 2 回 ESD 活動支援企画運営委員会（以下「第 2 回企画運営委員会」）では特にこの点についてご指導、ご助言頂きたい。

文部科学省 森本国際統括官：

- ESD の推進や SDGs という世界的な動きを、日本がどうやって、どれだけ大きくしていけるか、文部科学省としても、顔の見えるものにして繋げていきたいと思っている。
- 様々な NPO/NGO、企業の方々等、活動の広がりや盛り上がりを実感しており、この盛り上がり、国際的な展開、視野を広めながら、ますます高めていきたい。
- 官邸においては、SDGs に関して推進本部ができ、関係省庁が一体となって取り組むということで、積極的に貢献していきたい。
- 地方センター設立の準備も進んでおり、引き続き忌憚のないご意見をお願いしたい。

環境省 奥主総合環境政策局長：

- 文部科学省と連携しながら、平成 29 年度の地方 ESD 活動支援センター設置に向けた準備を進めている。
- 環境省としては、来年度の予算概算要求において、新たに地方 ESD 活動支援センター運営経費を要求し、その実現に努力していきたいと思っている。
- 本事業は、官民連携事業として、委員の先生方初め、多くの関係者の方々の意見を十分に反映させながら進めていきたいと思っている。

センター長：

(出席者リストにそって委員紹介)

(環境省、文部科学省の人事異動に伴い、環境省総合環境政策局環境教育推進室・永見靖室長、文部科学省・鈴木規子国際統括官補佐の紹介)

(委員交代により、新任委員の自己紹介)

- この後の進行は、委員長に願います。

議題 1. ESD 推進ネットワークの方向性について

委員長：

- 第 2 回企画運営委員会は、ESD 推進ネットワークの活動を具体化していくために大変重要である。
- ESD 推進ネットワークの方向性について、資料説明の前に、今回の委員会の議論に深く関係する、地方センター設置に向けた日程の概要等について、環境省の永見室長よりご説明いただく。

環境省 永見環境教育推進室長（以下、室長）：

- 資料 3 は、今後の日程のイメージということで、ESD 活動支援センターの活動内容と、環境省が行っている動きを記している。
- 文部科学省と協力し行っているが、地方環境事務所や地方センターの部分は、環境省や地方環境事務所が主体となって行っていることが多くあり、予算要求も環境省が行っている部分が多いので、説明をさせていただく。

(資料 3 地方 ESD 活動支援センター（仮称）設置に向けた日程（案）(p.1) から「ESD 活動支援センター」部分の説明)

- 平成 29 年度 7 月をめどに、全国 8 か所での地方センター設立・開設を考えており、地

方センター設置準備意見交換会を、連絡調整会と名前を変えて進めていきたい。

- その準備のために、まず平成 29 年度予算の概算要求を説明させていただく。

(資料 3 予算概算要求の説明 (p.2-3))

- 財務省に対して 8 月末に予算概算要求を行い、最後に国会で議論いただき決定いただくという形になっており、資料に書いてあるものは環境省から要求をさせていただいているものである。
- 「国連 ESD の 10 年」後の環境教育推進費という形で、「3. 地方 ESD 活動支援センター (仮称) 運営等経費」として要求しているものが、全国 8 か所で地方センターを運営していくための予算である。

(資料 3 地方 ESD 活動支援センター (仮称) 設置に向けた日程 (案) (p.1) から「環境省」部分の説明)

- 地方センター設置・開設のための準備について、地方環境事務所と地方環境パートナーシップオフィスとで協力して、今後進めてもらうように、8 月に依頼をしている。
- 関係者への協力依頼や意見交換等は、東京で環境省、文部科学省、センターで決めたもので、前室長時代から進めているが、今後も引き続き関係を強化すべく取り組んでいきたい。
- 準備委員会 (仮称) は、地方環境パートナーシップオフィス、地方環境事務所の方で、現在、準備委員会 (仮称) 委員の選定・委嘱を行いつつあると認識しており、基本的には各地域で年内に 1 回、年度明けてから 1 回、準備委員会 (仮称) が行われると考えている。
- 地方環境事務所に準備委員会 (仮称) を設置して開催、その中で地域の実情に応じた地方センターの体制・目標を検討し、来年 7 月をめどに地方センター設置をしていきたいと考えている。

委員長：

- 地方センター開設に向けた動きが本格化してくるという中で、今日の委員会が位置づけられているということが明確になった。
- 全国・地方センターに関わる皆さんにとっては、本日の議論が重要な指針になると思う。

事務局：

- 第 1 回企画運営委員会では、ESD 推進ネットワークの形成に向けて、構想から具体化に向かうために、平易な文章で書かれた資料を作成することに委員会として合意していただいた。
- 資料に記載すべきネットワーク全体の方向性、共通目標、地域 ESD 活動推進拠点の具体的なイメージや役割についての議論を受けて、文部科学省と環境省にも相談して、「ESD 推進ネットワーク構築に向けて」解説資料 (案)」と「ESD 推進ネットワーク

の目標等（案）」を作成した。

- 2つの資料案を、委員の皆様からのコメントを受けて、改訂したものが、本日配布した資料4、資料5となっている。
- 資料4、5共に、資料案からの変更箇所の分かるものも参考までに本日配布しており、コメント欄に第1回企画運営委員会の意見及び事前にご相談した資料案への委員コメントとその対応についても記載している。
- 資料4「『ESD推進ネットワーク構築に向けて』解説資料（案）」について、四角で囲んだ中は、「ESD推進ネットワークの構築に向けて」（以下「構築に向けて」）の本文で、囲みの無い部分は解説文書の案になっている。図については、「構築に向けて」の参考②の図の他に、解説文書の附属文書として、横長の図を1枚追加している。
- 解説文書作成の折には、「構築に向けて」の本文は基本的に変更無いと事前に伝えていたが、例外として、事実関係に関する技術的な訂正のみ行った。
- 10ページのGAP機関包括型アプローチに加えた注に誤植があったため、事前にメールで送付した資料とはこのページのみ異なっている。

委員長：

- 資料4の本文、つまり囲みの中がどう変わったかをご説明いただいた。
- 提出いただいたコメントについては基本的に反映されているが、それについても確認いただき、委員の皆様の見解を伺いたい。
- センターより、新たに追加された図について、追加した趣旨や、この位置づけについて説明をお願いしたい。

事務局：

- 資料4コメント有りの8ページのところで、第1回企画運営委員会で意見を頂いた中に、全国センターと地方センターの役割分担と連携が明確にされなければいけない、様々なネットワークや活動拠点が既にあり、それがどのように全体のネットワークに位置づけられていくのかなどを明確化すべきという意見があった。
- 基本的な役割分担は既に「構築に向けて」に記載されているので、それを基本に、横長の図に関係性を図示するという趣旨で作成し、解説の文も加えた。

委員長：

- 文章だけだと分かりにくいところもありビジュアル化したということで、全国と地方の関係について、ここも含めて意見を伺いたい。

委員：

- 全国レベルのネットワーク団体・組織へ挨拶に行かれているとのことだが、どの辺りに

挨拶をされているのか、方針があったら資料 4 に関連づけて伺いたい。

事務局：

- まず、資料の議論を先にしていただいた方がよいかと思う。

委員：

- 具体的な名前が入ってくると、イメージが湧くのではと思ったが、判断はお任せする。

委員長：

- 事前に頂いたコメントは反映されているということでよいか。あるいはコメントされていない方も、今、是非ご指摘いただきたい。

委員：

- 資料は修正するときに見ており、コメントなどもしているのでよい。
- 他の委員の方で指摘がなければ、これを使ってどうしていくのかを話した方がよい。

委員長：

- 中身についてはこれでよいのではという意見であった。

委員：

- 資料 3 について、スケジュールの説明の中で、各地方が地方センター設立に向けて準備委員会（仮称）の委員委嘱等を進めているとのことだったが、この準備委員会（仮称）が、資料 4 に 1 ページ追加された概念図の地方センター運営委員会（仮称）の中にスライドしていくという認識でよいのか。
- 運営委員会（仮称）が果たす機能を、ある程度イメージしておかないと、地方センターの方も委員の委嘱であるとか、来年の設立に向けたときのステップアップがどうなっているのか、確認したい。

事務局：

- 図について、概念図はセンターが立ち上がった後のことを想定しているので、運営委員会（仮称）としている。資料 3 の準備委員会（仮称）は、その正式名称が決まっていないう運営委員会の準備委員会ということで、その前段にあたるものという理解で作成させていただいた。

委員：

- 準備委員会（仮称）が運営委員会（仮称）につながっていくということ。

室長：

- 基本的には、特別な事情が無い限り、準備委員会（仮称）が運営委員会（仮称）になる想定で資料を作っている。
- 地方の運営委員会（仮称）は、基本的にはその年度の事業計画を承認し、年度が終われば事業の確認をするというのもあり、実態としては、地方センターが、情報の収集整理、蓄積を進める上でのアドバイスを行うということもあるかと思う。

委員：

- 資料4に関しては、意見を反映していただいているので、これで良いと思っており、これをどう使うのかが重要。
- 追加された概念図に、ESD 関係省庁連絡会議や省庁等地方支分部局があるが、現場の人たちはいろいろな形で各省庁と連携した仕事をしているので、その方々が、どういう形で準備委員会（仮称）や運営委員会（仮称）に入ってくるかを、視野に入れた動きをしていかないと、地方センターの機能が偏ってしまうのではないか。

室長：

- ESD 関係省庁連絡会議で、国土交通省・農林水産省・経済産業省・内閣府等々、関係省庁があり、現場では様々な形で、省庁の地方支分部局が関係してくるところで、地方支分部局に関係者が働きかける際に、事前に中央省庁から話が通っていないと、分からないとなってしまうのは、ご指摘のとおりだと思う。
- ESD 関係省庁連絡会議は正式なもので、それなりに議題が挙がってこないと開催は難しいかと思うが、関係省庁には現在の地方の動きを報告し、動きに滞りが無いように努めていきたい。

委員：

- 準備委員会（仮称）から運営委員会（仮称）に移していくときに、地域のいろいろなステークホルダーを巻き込むために、どういうメンバーが良いのかを地域でよく話し合っていかなければいけない。
- どんな方にどんな役割で準備委員会（仮称）に入ってもらい、また運営委員会（仮称）に入ってもらいのか、もっと検討しなければならないと地域で話している。そこも含めて、初年度、地方センターがどういう役割を担っていくか、後で議論していただきたい。

委員長：

- まさにこれから地方センターに向けてどう進めていくのか、どう機能させていくのか、

後ほど議論していきたい。

委員：

- 資料 3 で、「3. 地方 ESD 活動支援センター（仮称）運営等経費」（以下、予算 3）に予算を用意していただけるということだが、地方のセンターを作るというのは、運営するだけでも難しいことだと思う。
- 予算 3 は新規の予算だが、「2. 環境教育・ESD 基盤強化促進事業」（以下、予算 2）とどう違うのか。
- 予算 3 はどういったところに使う予定なのか伺いたい。

室長：

- 予算 3 については、地方で活動していただくための予算要求ということで、具体的なことを決めている段階ではなく、それぞれの地域で決めていただくと思っている。
- 予算 3 は予算 2 に近いことをやる可能性が無いわけではないが、基本的な運営経費、人件費も含め、ワークショップを開くなどといったことも想定している。

委員長：

- 資料 4 についてはご了解いただいたということで、資料 5 について事務局から説明いただきたいと思う。

事務局：

- 資料 5 は、「ESD 推進ネットワークの目標等（案）」解説文書で議論いただいたネットワークの目的の下に、ネットワークとしての目標と、平成 31 年度までの成果目標等の案をまとめたものである。平成 31 年度（2019 年度）は GAP の最終年に当たる。
- 資料 5 も第 1 回企画運営委員会の議論を基に、事務局でたたき台を作成し、委員の皆様からのコメントを生かしたものである。まったく新しい資料のため、資料案には委員の皆様からも多くの意見を伺い、でき得る限り反映した。
- 構成としては、最初に目的の引用、ネットワーク全体としての目標、2019 年度までの目標があり、それぞれに活動や指標、データの例を挙げている。
- 10 ページ以降の注については、引用文書の取り扱い等、構成の整理が不十分のため、この後改めたい。

委員長：

- 地方センター設置の準備過程から考えると、本日はどの部分を中心に議論して方向性を出せばよいか。

センター長：

- 3 ページの ESD 推進ネットワークの目標については、ESD 活動支援企画運営準備委員会の成果文書「構築に向けて」から導きだされたものであるため、文言の改善を除き、内容についてはこのままにさせていただきたい。
- ネットワークの目標の下、4 ページから 9 ページの表の中の「成果目標」にある 8 つの項目について、文言の表現の改善の余地を含みつつも、成果目標の内容までは合意していただけるとありがたい。
- 同じ表の中の「活動内容」についても、ご助言を頂ければと思っている。

委員長：

- 資料 5 の成果目標に合意を得るということを目標に、議論を進めたいと思う。

委員：

- 評価指標に入り込むが、7 ページの 3-2 のところで、政策に ESD の視点が入り入れられているのをどう評価するのか想像がつかない。政策といってもいろいろなレベルがあるので、断片的にしかできないのではないかと。むしろ、政策にうまく取り入れられた事例を把握して示すことができるかどうかを、事業の評価の仕方として考えてはどうか。
- 8 ページの 4-1 で、人材が育成されるというのは成果目標になるが、指標のところに書かれている、講師候補が限定的に見えてしまう。活動の実践者が増えていくのを指標にした方が良いのではないかと。
- 9 ページの 4-2 のコーディネーター研修について、全国センターの事業として、あるいは地方センターの事業として行うことは決まっているのか。

事務局：

- 評価指標の整理がまだ進んでいないので、今日の議論を受け、ご助言を参考にしながら進めていきたい。
- ESD コーディネーターについては、明確に予算を頂いているわけではないが、「構築に向けて」本文に書かれていた「ESD 活動のコーディネーター」を意識したもので、新しい話があるわけではない。

委員：

- 予算の中で変動して変わり得るという理解でよいか。

センター長：

- ネットワークの構築に向けて、全国センターの役割は非常に広範囲で、予算的な制限も

あるが、今後、活動を進めていく中で、ここにあるような様々な展開ができればよいということを書かせていただいた。

委員：

- SDSN (Sustainable Development Solutions Network) という組織で、今回非常に重要な、目標 2「現場のニーズを反映した ESD の支援体制を整備する」のところで、多くのネットワークを作っていくときに、地域の企業をどうステークホルダーとしていくかという議論がなされた。
- 企業の投資活動について ESD 型のリードをしていこうというプログラムに、日本政府も積極的に役割を果たしていこうとしている。
- 全国レベルでも、地方レベルでも、企業を大切なステークホルダーにしていくということで、環境省がやっている地方の環境支援政策は非常に大きい役割を果たしている。
- ESD の活動推進支援体制は、現場にある企業だけでなく、これから育っていく子どもたちにもインパクトがあるので、長期的には、非常に大きい役割を地域は果たすであろうし、企業も評価してくれると思うので、ぜひ企業に触れていただきたい。

センター長：

- 様々な関係団体とネットワーク構築を作っていくうえで、企業も多様なステークホルダーの一つであり、企業は社会を変えていく大きな力を持っているという意味では配慮が必要だと思う。そこについては検討したい。

委員長：

- それは成果目標についてか。

委員：

- 成果目標、評価目標と両方あるのももちろん良いと思う。企業の方との連携は、次の時代の CSR だと思う。

センター長：

- この分野については委員長が一番詳しいかと思うが、意見を賜りたいので、ぜひご披露いただきたい。

委員長：

- 非常に重要な指摘だと思う。ESD というのはステークホルダーを除外するのはあり得ないことなので、当然視野に入らないといけない。
- 企業について何らかの言及をすることは重要であり、具体的な中身についてはこれか

ら議論していきたい。

委員：

- 資料 5、4 ページの上段に、「それぞれの目標のもとに、成果目標、成果目標達成に資する活動の例を掲げる。」と書いてあるが、例という言葉はどこにかかるのか、確認させていただきたい。

事務局：

- 例は、活動、評価指標、それに関連してデータも例示という位置づけである。

委員長：

- 成果目標は例ではなく、それ以外は例であるということを確認した。

委員：

- 目標項目 4 項目の整理と、成果目標に関しては、準備委員会（仮称）の構成に合わせてあるので、それで網羅していて良いと思う。
- 成果目標の 1-1 や 2-1、2-2 については、活動の成果というより行動目標に近いのでは。
- 重要なのは、成果目標 2-3 の、この 4 年間ないし 5 年間の、推進のためのネットワークで作った枠組みが、どれだけ地域の活動拠点を新しく作り出したか、課題解決、強化に貢献したかということと、3-2 の、いろいろな分野で、横断的に広げていったかというところと、政策という仕組みに、国や自治体等いろいろなレベルでどれだけ落とし込んでいったのかということが、最終的には大きな評価をすることになるのではと思う。
- どれだけ ESD 拠点が増えたり、強化されたりしたかが重要だと思うが、それが最終的な上位目標である GAP の 5 項目をどれだけカバーできているのか、または弱かった部分をどれだけ補強できているか、を目指していくということを、何らかの形で表現できると良いと思う。
- 評価指標にかかるが、3-1 の活動の部分で全国フォーラムが初めて出てくるが、1-1 や 2-1、2-2 を評価するところで、センターが全てやるだけでは良くないと思うので、関係者や拠点の方々が集まる全国フォーラムで、どれだけ役に立っているかということ、何らかの形で引き合いに出すことを念頭に置かれたら良いのでは。

センター長：

- 全国フォーラムのところも考えていきたいと思う。

委員長：

- 後ほどの議題の中でも、全国フォーラムについての議論もしていく。

委員：

- 目標項目と成果目標は明らかになってきているので、この達成のために何をしていくのか、今年度の予算や期間を含めて考える必要があり、それが決まってくれば、自ずと評価指標などが見えてくるのではないかと。
- 地方センター及び全国センターが一緒になって、一年ずつ積み重ねていくということが大切だ。成果目標については今日明らかにして、地方環境事務所と議論しながら、地方センターが何をすべきか、そして準備委員会（仮称）で議論していく内容が決まっていこう。
- 4-1の講師の部分で、4の目標はあくまでも「ESDを推進する人材の育成が進められている」なので、人材が育成され活動の場を広げているのは、狭い意味での講師の派遣だけではないと思っているので、それぞれのフィールドで何ができるのか明らかにしながら、事務局に修正を提案していけばよい。

委員：

- 表自体は、大きな異論は特に無いが、目標で重要なのは、GAPの5つの優先行動分野を、成果目標や評価指標等に、どこにコミットしているのかという整理は、これからきちんとしていくべきではないかと。
- GAPの場合は、システム的な部分の目標、推進体制をどう構築するかという観点の側面が強く、SDGsの場合は、どのような持続可能性のゴールを目指して、それに向けての具体的な取組の内容に、非常に大きな示唆、方向性を示すものだと思う。
- GAPとSDGsの2点で、ネットワークや仕組みを見ていき、国でも地域でも、個々の団体のレベルでも、共有していくべきだと思うので、そこは念頭に入れながらチェックをしていくということが必要。

委員長：

- 大変重要な指摘であった。

委員：

- 目標項目と成果目標に関しては、GAPもSDGsに重複しているところがあり、次に活動を作っていくときに、GAPやSDGsの視点を汲み入れて、そこはクロスして評価していくというイメージでよいのか。
- 今後、地方センターで説明していくときに、作ることが目的になってその視点が抜けるといけないので、どうインプットしていくかというところを、考えながら聞いていた。

委員：

- この中で、GAPのある部分についてはつながっているところはクロスしてやっていってよいのであろうと思う。
- SDGsに関しては、個々の活動の展開の中で、自分の得意分野であるとか、あるいはアプローチの部分、ネットワークを使って共にSDGsの目標に向かって貢献していくという姿が見える化していくと、ESD活動支援センターが、ESDさらにはSDGsの部分に貢献しているのがつながっていくのでは、ということ期待しての話であった。

委員：

- 目標項目の1を広く解釈して、SDGsやGAPとの関連が明確になるような成果目標を加える、あるいはESD活動支援センターが収集、整理、蓄積、共有すべき情報が何かというのが共通認識にSDGsやGAPとの関連を入れ込んでいくと、今の議論が、具体的な活動や評価指標に組み込まれるようになるのではないかと思う。

委員：

- 資料5の3ページに目標があり、国内実施計画、GAP、SDGsの3つ柱があるのは分かったが、マトリックスを使って、我々は何をするのかを、立体的に分かりやすくしたものを示していただくとよいと思う。
- 図などで分かりやすく整理されたものがあると、センターの姿が見えると思うので、ぜひ整理をしていただけたらと思う。

センター長：

- センターの活動が、GAP、SDGsの実践に寄与し、持続可能な社会、世界に貢献していくというようなことができれば、ESD活動支援センターを作った意味があると思っている。
- ご指摘はごもっともで、趣旨は非常によく理解しているが、具体化に向けては委員の皆様と相談しながらやっていきたい。
- 特に国内実施計画、GAP等は踏まえていく、あるいはSDGsを射程に入れていくというふうを考えざるを得ないと思っており、成果目標の中に、国内実施計画、あるいはGAPを入れ込んでいくということであれば、大きな修正無しに行えるかと思う。

委員：

- 国内実施計画の中でESD活動支援センターは大きな目玉であり、5つの優先行動分野ごとに、優先順位をあげたり、あるいは1つのカテゴリーではなく、2つ3つにまたいで再掲してもらったりということをしてしながら、これをハイライトしてきた。
- ESD活動支援センターは、国内実施計画を担っていく大事な事業であると考えたときに、国内実施計画はGAPにそって構成されており、SDGsを実現するという大きな先

がある。そういう脈絡で捉えてほしいという思いを、この委員会でも確認し、各地方センターに向けてもその思いを伝えていただいて、各ステークホルダーが、自分のできる部分にコミットしてセンターを活用、あるいは貢献して欲しいという思いがある。

事務局：

- 今後、センター内でも、委員の皆様、環境省、文部科学省にも相談しながらやっていきたい。
- やらないといけないことを全て囲い込もうとし潰れてしまわないよう、ネットワークの大きなハブであることで、SDGs については、GEOC さんや IGES さん等専門的に取り組んでいるところに ESD のことを深く紹介し、相乗効果につながるように力を尽くしていけると良いと思う。

委員長：

- 資料 4 と資料 5 については、今年度中に確定をさせたいというところで、今後も議論していきたい。
- 本日は成果目標の合意、基本的にこのままの形で進めていくこと、地域の企業も検討するというところで、引き続き、具体的な進め方について議論していきたい。

委員：

- 資料 4 の 12 ページの図は、これから地方センター設立にあたって、必ず使う非常に重要な書類だと思っている。
- 下段に関係省庁など国の機関が書いてあるが、図として、もう少し一体感を出した方がよいのではないか。
- 各地でブロックごとにやるとなると、農林水産省の関係であったり、国土交通省が ESD 的なことをやっていたり、必ずいろいろなつながりを求めることになる。
- 図の上で、文部科学省と環境省が中心となって、その仕組みを事務局が考えて、それを地方の担い手としてこういう話があるのだということを説明できるように、揃えていただけるとよいと思う。

委員長：

- 具体的には枠で囲むということか。

委員：

- 統一して、一番下に枠の中に省庁を入れるとか、文部科学省と環境省が中心であるというのであれば、それを一列にして、関係省庁連絡会議と省庁等地方支分部局を 2 行

目に揃えるとか、政策として各省庁と一体として巻き込んでやっていくことが分かる構成にしていればよいと思う。

委員長：

- 大幅に直すというよりは、揃えるということで、ぜひそれも検討していただきたい。

議題 2. ESD 活動支援センターの主要事業について

(1) ESD 推進ネットワーク全国フォーラム（仮称）について

事務局：

(資料 6)の説明)

- 仮称となっているが、ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2016 という形で、開催できればと思っている。仮タイトルとして、「ESD 第 2 ステージ：未来をつくる学びの俯瞰図」として、SDGs も意識した内容になっている。
- 参加者の募集は、関係者の皆様からの声かけもぜひお願いしたいと思っている。委員の皆様には、ぜひ参加をご予定いただきたい。

(2) 若者世代による情報発信プロジェクトについて

事務局：

(資料 7)の説明)

- 若者世代による情報発信プロジェクトの背景として、GAP の優先分野でもあるユースが重要視されており、センターでも ESD 推進をユースが担っていく仕組みとして、このプロジェクトをスタートさせたい。
- 第 2 回企画運営委員会での意見を反映、募集要項を確定し、公募したいと思っている。

委員長：

- 今この場でご助言等もあるかと思うが、時間の制限もあるため、9 月 20 日までに事務局に直接お寄せいただきたい。

委員：

- 全国フォーラムの目的はよく分かる。ESD 推進拠点や実践者、ステークホルダーが全国レベルで集まれる唯一の機会として非常に重要だと思う。
- 資料 5 の活動や指標のところで、全国フォーラムを活用してはどうかと申し上げたが、参加者が交流して学び合うだけではなく、評価等を引き出せる場を持った方がよいのではないか。
- 具体的には、最後のプログラムで、推進体制に関するディスカッションを、関係者が全

員参加できる場として設けてはどうかと思う。

事務局：

- 進め方については、今の指摘も含めて決めていきたいと思う。

委員：

- 若者世代による情報発信プロジェクトは、来年度も続くということで、環境省の大学生ユースの人たちは、来年社会人になっている人もいるが、それとどうやって連携していくのか。

事務局：

- 若者世代による情報発信プロジェクトの今年度のレポーターにも、来年度以降も自発的に継続的にレポート活動していただけたらと思っている。
- 環境省の大学生ユース事業に来年度計画も踏まえて、どう連携していくのか、検討しなければならないが、まだ議論できていない。

委員長：

- ぜひ、検討をお願いしたい。

委員：

- 全国フォーラムは、センターが何をしていくのかを紹介する、お互いが顔を合わせて情報交換をする、重要な場であろうと思う。
- 1年目は、地方センターがまだできていない段階で、「ESD 推進ネットワークと ESD 活動支援センター（全国・地方）の紹介」は非常に重要なテーマだと思っており、今年の全国フォーラムのメインは、地方での今後の動きと、これまでの ESD 成功例の共有というように、ターゲットをはっきりさせた方がよいのでは。

委員：

- 全国フォーラムの午後に予定されている「持続可能な社会構築のための協働を俯瞰する」というグループディスカッションが、どういうことなのか抽象的で分かりにくい。
- グループディスカッション後にやる予定の「ESD 推進ネットワークと ESD 活動支援センター（全国・地方）の紹介」で、全国、地方の方々がどんな関係性を持てるのか等、全国センターの取組と今後の展開を踏まえたディスカッションをすると、地方センターを担う関係者も事業展開のイメージがしやすいのでは。

委員：

- 地域に戻り全国フォーラム参加の声かけをする時に、全国フォーラムで何をするのかを説明しにくいと思っているが、全国センターや地方センターが何をしようとしているのか、何を大事にしようとしているのか分かれば、来てくれるかもしれない。
- 地域 ESD 拠点や、地方センターの準備委員になるような人が全国フォーラムに来たいと思える内容にしなければいけない。
- SDGs や国内実施計画の話も踏まえて、センターが何をやっていくのか、また、事例紹介に関しては、全国センターとして地方の人にも、この事例にどういう意味があるのかという切り口を明確にすると、多くの方に伝わるのではないかと。
- ネットワークの成長のために来ていただく人たちが、何を持ち帰るのかという点を入れていただけるとよい。

委員長：

- 建設的な意見を頂いた。
- 資料 6、7 に関して、必要があれば、9 月 20 日までに意見を頂き、事務局から委員全員に共有しつつ進めていってほしい。

議題 3. その他

事務局：

- 全国レベルのネットワーク可視化のためのツール作成について、ネットワーク全体の方向性が定まったので、改めて、可視化ツール作成の目的、活用方法等を整理した上で、企画運営委員会内外から若干名の検討委員を委嘱し、ESD 活動支援センタースタッフを加えたタスクフォースを編成したいと考えている。資料の用意が整い次第、共有させていただきたい。
- ESD 活動支援センターの新しいパンフレットは、本日の議論を踏まえて制作に移り、11 月の全国フォーラムまでに完成させたい。委員の皆様には、ドラフトができた段階でご助言を頂きたいと思っている。
- 第 2 回企画運営委員会の議事録案については、事務局から近日中に送付し、皆様の確認を得た後、議論の概要及び委員会資料を、センターのウェブサイトに掲載する。
- 第 3 回 ESD 活動支援企画運営委員会は、来年 1 月中旬から 2 月の開催を予定している。年度末になるため、日程調整はできるだけ早くさせていただきたい。

委員長：

- 委員から情報共有があるのでご紹介いただく。

委員：

- 経済広報センターは、企業をどう巻き込んでいくのかという部分で役割があると思っ

ており、経済広報という機関誌の10月号に、委員長のお名前で、「持続可能な発展のための人づくり」という原稿を書いていただいた。CSR、社会貢献に取り組む方々に向けて、広報活動を始めたところである。

- TOSS（教育技術法則化運動）という団体から出ている機関誌に、用語解説のところで「ESDをご存知ですか」というテーマで2ページ掲載している。

委員長：

- 以上で、第2回ESD活動支援企画運営委員会を終了する。

以上